

水源禅師法話集 94

(2018年5月13日 大阪合宿3日目)

2019年2月23日

一乗禅の会



南米 ペルー

目次

水源禅師法話

阿弥陀様と深い関係にある水源禅師.....	3
お釈迦様、カクサンダー仏陀、弥勒菩薩様に会っている禅師.....	4
仏牙齒を持つ四つのお寺.....	4
中国四大仏教霊地をお参りする.....	5
五台山、ルクソール、チベットの文殊師利菩薩.....	7
南米の神パチュクテに呼ばれナスカへ、次々と現れるビジョン.....	7
南米4000m級の山々を超えて、そこでもビジョンが.....	10
ライオンズゲートオープン！時空を超え超文明惑星へ.....	10
第九禅定でポータル・太陽からインカの大神様を連れてきた.....	12
無量にある銀河・梵天の網、インドラの網は六角形.....	12
阿弥陀の国に行くには蓮の花から生まれる.....	13
コンピュータでは究極の心の世界は解析出来ない、法随観でしか.....	14

水源禪師法話

阿弥陀様と深い関係にある水源禪師

大乘仏教では四大菩薩、地蔵菩薩、普賢菩薩、観世音菩薩、文殊菩薩の四大菩薩が、四方の位置にあつて、四大如来、阿閼、宝生、阿弥陀、北は虚空蔵菩薩という、不空成就如来。南伝では、西がカクサンダーブツダ(拘楼孫仏)阿弥陀の位置にして、北がコーナマガブツダ、東がカサパブツダ、南がゴードマブツダという風に名前が変わります。

それで私が神護寺で、灌頂を受けた時、私の花は、皆、大日如来だろうと思っていたけれど、いや実は花が阿弥陀さんの所に落ちたのですね、西です。それで、なぜ阿弥陀如来なのか？と、まあその前に、阿弥陀様にはお会いしているけれど、お会い出来たけれど、その秘仏が高野山にあるのですね。

その秘仏を見る前に、「阿弥陀様は赤、朱の色ですよ」と言ったら、もうびっくりしてすぐに案内して見せてくれて。普通は見せないのですね、絶対に。それを言い当てたものだからもうびっくりしてしまつて。

それで阿弥陀様の所に落ちて、私はてっきりお釈迦様が、北面仏だと思ったのです。大乘では北面仏になっているわけです。それで阿弥陀様は西。そして私は、過去にカクサンダーブツダに出会っていますから、まあそういう事は分からなかったけれど、カクサンダーブツダは西に位置するわけですね。それで阿弥陀も西、あ、そうか、それで私の花が、阿弥陀様の所に落ちたのだなという事で、私も知らなかったけれど、阿弥陀様と私は凄く深い関係にあるという事が旅することによって段々分かつていってね。

結局一番古いミャンマーのお寺は、一説にはアショカ時代その後に来たとかいうけれども、お坊さんは、いやいやこれは 2500 年前にできた、一番早くできたお寺ですと。それで入り口が、カクサンダーブツダの西になるわけですね。賢劫仏第一仏、過去七仏のまん中に位置してね、名前をちょっと忘れたけれど、その後ビパシ仏、キッシム仏だったかな、忘れたけれど、まん中に位置してね。

チベット仏教では七つコップあげるのですよ、必ず、1, 2, 3. ほとんど人はなぜ七つなのか？と言う事を明快に分かつていないわけです。ただ密教では過去七仏と言って、それははっきりと説明しないわけ。カクサンダー仏は、全ての悪を退治する仏と言う仏で、賢劫第一仏で、この後千仏が続くわけですね。その時の私が、過去に出カクサンダーブツダに会って非常に可愛がられたわけですね、その影響があつて現世で法を持つことが出来たけれど。

お釈迦様、カクサンダー仏陀、弥勒菩薩様に会っている水源禪師

それでゴータマブツダ様とも縁があるのでしょうか？何故かと言えば、BUDDHĀUSSATI を修行した時に、お釈迦様のお姿を拝見しましたし、それでカシナの瞑想に入る時に、その時に過去に仏に会った人は、空中にこう白い円盤があがってくるのですね。それが大きく広がって、四方八方に広がっていくわけです。だから過去に出会っているという事が分かるわけですね。修行でどんどんどんどん検証していくことが出来ます。

それでどのブツダに会ったかと言う事は、その BUDDHĀUSSATI をやれば、私の場合は三人のブツダに会っているわけです。それがどのブツダかはっきり分からないわけです。ただお釈迦様は分かります、この衣を着て、完全にすぐお釈迦様と。もう一人はどなたかなというくらいで、それがカクサンダーブツダ。もう一人もごつい顔をしていたどなたかなー？と、これから出られる弥勒菩薩如来様のお姿を拝見しているわけです。その衣の姿は、こう言う衣ありますか。いやあそう言うのは聞いた事ない、これからの時代に出てくるのでしょうかね、その衣は、未来仏で。

仏牙齒を持つ四つのお寺

まあそういう事で。そういう過去に非常に可愛がられた因縁によって、この世においてお釈迦様の仏牙齒の犬歯ね。これは一つはキャンディ、一つはもう数年前に発見されたプラノヌールそこは二千年前にそこにナーガの女王に寄付して出来たという。それがもう洪水か何かで位置が忘れてしまって、つい10年前に発見され、それがタミールのテロリストによってそこを破壊されそうになって、軍隊で守っていました。

それでその二つを拝んで、その後中国の靈光寺にほかの仏牙齒があると。それでわざわざ北京に行って拝んで、その時に頂いたのがこの観音様。その後、今度台湾の佛光寺、巨大ですよ。まあファイブスターホテルで、凄い料理も良いし、それぞれ凄いホテルで、そこで丁度、巨大な仏牙齒を祭る、工事中で、巨大いで、でかいし広大な所です。そこがたまたまもう目の前で拝める所にあって。それで丁度スタッフのHさんも連れて行って拝んだけれども、そのバイブレーションが凄かったでしょう？

【司会者】

はい。やっぱり。異空間、異次元でしたね、表現出来ないです。

【水源師】

表現できないでしょう？

私は国、国境を越えて四つ、そういう風に幸運にも拝んでいるわけです。この仏牙

歯は、アフガニスタン(大乘仏教の本拠)から来ているわけです。アフガニスタンの王様が、チベットのお坊さんに託して、それをダライラマ法王が星雲大使にダーナしたわけです。こう捧げて。それでとても喜んで、台湾に巨大な仏歯のお寺を作ったのです。

中国四大仏教霊地をお参りする

だから四つなのですね、何でも。その菩薩も(文殊菩薩、観音菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩)。文殊菩薩の聖地として五台山(ウータイシャン)は仏教界で非常に有名です。でもここを実際に訪れる日本のお坊さんも稀だと思ひ、また私みたいにメイヨウ(中国発音)山の普賢菩薩の山にお参りする人もまた稀だと思います。それでメイヨウ山の橋桁が、その昔千年以上前に崩れてその欄干の一つが海を渡って、日本に着いたわけです。それを手にした御坊様が、良寛さんです。という深い因縁があるわけです。

まあ中国と言えば鑑真和上の、そこから出発して日本にたどり着いた、奇遇にも私が貴州で自転車に乗って遊んでいる時に、何かなーと思ったお寺がそうだったわけです。

先ほど南米の話をして凄かったでしょう？その連続なのです。それでそこに誰もいないのです。ここから好きな本を持って行って下さい。それで地藏様のお経を頂きました。地藏菩薩(日本は津々浦々まで)様とも非常に縁があるわけです。

その後気づいたのは、私のご先祖が、九華山の真身舍利寺院のお寺を新羅の王子様にダーナして、プラス自分の長男をさしあげたわけですね。だからそういう風にそこに無得菩薩？という犬の菩薩があるわけです。犬が一生懸命介護して、王子様の比丘が私が死んだら、その身を箱に入れてくださいと、私の体が腐らなかつたら金箔を張ってくださいと。今でもあるわけです。何故かといえば、自分の身体が舍利になったから、舍利で中国を守るという事なわけですね。

という風にこの法を燃やさないで、そのまま全身舍利にして中国を守り、仏教、仏法を守るという事でそうされたわけです。という風に、私は観音様も非常に信仰しているから、どうしても観音様の補陀落観音様におまえりしたかったのです、それが天台宗の近くなのです。天台山、日本の比叡山。そこに最澄さんが修業したのだと思うこれも。それで船に乗って行けば、巨大な観音様がこれ、観音様写真を撮って、これです。それでこの傘みたいなのは、ミャンマー語で書かれて私が行を修めたときに、一人のお坊さんが行を修めたという印で私に差し出してくれたわけです。だからこう傘みたいな形になって、ミャンマー語で書かれている。法随観を行をした後です。

それで最後の菩薩様を訪ねた時が、文殊菩薩さま、五台山の善財童子だからここを拝めば、お金がどんどん入ってくるし、幸運が来るという事で中国では有名で、ここに拝みにいくわけです。今でも凄いですよ。沢山の観光バスで、にぎわってます。



五台山 山門

五台山、ルクソール、チベットの文殊師利菩薩様

チベット仏教の方も、半分はチベット、半分は大乗という事で、私はそこで瞑想して行こうと。そうしたらお坊さんが、「いやいや、ここはね、瞑想する場所ではない」と、これ見て下さい、こういう写真が掲げてあって、あ、失礼しましたと。中に入れてくださいと。中に入れて本物の写真を示して、これは五十前に撮った白黒の時代ですけれど、空中に文殊菩薩が表れて、その時に撮った写真がこの写真、色が付いています。本当は白黒のフィルムで撮影したそうです。

【司会者】

ちょっと色が違うのですがごめんなさい。

【水源師】

そうそう。それでお坊さんに私が、じゃあこの写真撮って良いですか？と。「はいどうぞ」と。真っ暗だけれどもフラッシュたいてこういう風に綺麗に出てくれて、そして中国の人もいっぱい来て「私も撮りたい」、「あなた達はダメ」と、「私たちは中国人なのに、何故外人に何故撮らせるの」、と言って怒り始めたけれど、「いや、ダメダメ」と、まあお坊さんだからね、それで「はい」と。外国から来て、因縁と言う事が分かって、これがさっき言った文殊師利菩薩様でその菩薩さまの先生は、その宇宙時間を司る頭がライオンで体が女性、ルクソール(ラクソー)に一つあるのですね、あのエジプト。

この方が私の一番弟子は、文殊師利菩薩だと。その姿はチベットにもあります。もう一つはチベットのグルリンポチェ寺院の奥院にあって一般の人は入れません。そのお寺は、ラダックという非常に奥深いパミール高原の奥にある州で、非常に行くのが困難、その首都がレイという町で、昔はそこからカイラス山に上がって行ったわけですね。そのグルリンポチェ様というのは、チベット仏教では最高峰で、これだけ皆さんチベット仏教と騒いでいるけれども、何かそういう風に因縁があるわけですよ。

南米の神パチュクテに呼ばれナスカへ、次々と現れるビジョン

その他にもミラレパという凄い行者の比丘が、空中を飛ぶというお坊さんね。何故そういう事になったかと言えば、実は南米の神様に呼ばれたわけです。ペルーでは有名なパチュクテという大神様、私の部屋に表れて、羽を三つ付けて叫ぶわけ「パチュクテ!」、何だろうこれはと思って。でも私はナスカの地上絵あるでしょう？あそこに行かなければいけないわけです。呼ばれる、そこに行ってくれと、ビジョンをバーッと見せるのです。何で私がそこに行かなければいけないのかと。何故かと言えばそこには不思議な石が一つあるわけです。それであ、ここに行かなければいけないという事が分かる

のです。

ナスカの地上絵の一番大切な所は、不思議な井戸を沢山掘っているわけで。分からないけれども、皆飛行機で飛んで帰るでしょう？私の場合は、なぜか井戸に入っていけば、一つ一つ違うエネルギーなのです。だから全部そこで心を洗った後、今度はマッケイガというフラットマウンテン、ちょうど南米にもあります。同じツインマウンテンで南米とサウスアフリカのケープタウン、それは聖なる山で、こっちもまた聖なるマッケイガという名前で存在していたのです。私はそれも知らないわけです。

ただなぜそれを知っているかと言えば、よく映画であるでしょう？人間が鷹になって飛ぶと。実際にそのように瞑想の中で、飛んでいるフファーッと飛んで。その山が見えるわけです、本当に映画と一緒に。飛んで行って、その朝の九時東から上がるという事まで、鷹になって分かるわけ、シューッと飛んで行って。

名前も分からない、ただ地上絵の時に、その山の絵を見て、これは何処にあるのと、マッケイガと。マッケイガに行ってその旅館に入れば、この山はどこにあるかと、ミニバスで行けばすぐに行けるよと。案内人も何もいないのですよ。ただビジョンだけは、分かるわけで。面白いでしょう？これは私の本当の話なのです。

そして何故そこに行かなければいけないのか？そしてそこは、太古のインカの寺院があって、そこはティティカカ文明の寺院が昔あったと。向かいの山があってインカ文明の寺院があって六百年、お互いにこうお祭りして一回も戦争なしですって。

まあそこで無事に十二時に上がって瞑想して、それで無事にそこから帰って来たら、今度はビジョンが出るわけです。ティティカカに行ってくれと。ティティカカ文明あるでしょう？有名なサンゲイトとかそういう。ティティカカピラミッドの所に行ったわけですね。何故か知らないけれど、行けと言うから。ビジョンが見えれば、そこに行かなければいけないわけです。

それでそこに行ってズーッと過ごして、まあ遊んでいたら今度はプノーに行ってくれと、プノーと言うのはティティカカ湖の葦の村あるでしょ、そこに行かなければいけないわけですよ。何故だろう？と思って、まあそれ終わって、こう不思議なピンク水晶の石を捨ったり、その名も知らない河原で。それでいっぱい持って来て、これがお土産なのかなーと思って。

そして今度プノーに行って、まあその葦の家を見て楽しんだら、また今度はクスコに行ってくれというビジョンを見せるわけ。クスコに入れば、そこで朝観に、ビジョンが映画みたいに見せてくれるのです。そうしたらこう案内人が、ツアーリストの案内という人がコンピュータ見せて、私はワハラバハラを案内する旅行会社の者で、こういう所に連れて行きますとコンピュータで見せるわけ。全く同じ映像。

それで、いやー、そこには、その泊まったホテルには、インカの人が経営してシャレコウベがあるのです。ちょっと気持ち悪いかも分からないけれども、そこにずっとあって絶対に動かしてはいけないシャレコウベと。そこに泊まって。朝方そういうビジョン見て、

そうしたらこの旅行者が、私ただ一人だけこの一万三千年前のお寺に連れて行くことが出来ると。



巨石文明の遺跡で瞑想する水源師

南米4000m級の山々を超えて、そこでもビジョンが

それでそういう映像を見たものだから、不思議な山のとっぺん。「おおーそれはどういう所?」と。「ここから四時間くらいクスコからバスで行ってそこに着きます」と。「おおそれは近いな」と。「ただし、4500メートルの山を越えなければいけません。」4500メートルああ、軽い、軽い、私はもう6200メートル登っているから簡単だと思って、「はい、いいよ」と、ただしお金は600ドルかかる、ちょっと高いなーと思ったけれど、まあ映像で呼ばれて居るのだから、はい。

そうしたらドンキー ロバ三匹と、その料理人、ロバのロバ使い、ヘルパーと五人のキャラバン、それで私は王様みたいに歩くのだけれど、なんと4500メートル5回登って降りて行かなければいけないのですよ。上がっては下がって、上がって、ウワあーこれは、一つだけだったら簡単だけれど、まあキャラバンがあるけれども、やっぱり4500メートルは寒いのですよ、震えて。

でもそこでも、色んな不思議な太古のインカのビジョンが見えるわけです。人が空中に飛んでグーと不思議なもう映画みたいに見えるわけです。まあそれでも4500メートル5回は辛いのですよ。それである所に行けば、その大地から唸り声とか音がウオーっと出たり、石が動いたりという不思議な所を通りながら。まあ本当に三蔵法師じゃないけれども、そういう風な漫遊記と言うか。

そうして着いたところがインディアナジョーンズの映画みたいに、あるでしょう? こう、不思議な建物そんな所なのです。こう丘の上に太古のお城(一万三千年前)があるわけです。そこはUFO が出る不思議な場所で、この谷間からあっちの谷間に光が出てくるのですと。本当に出てくるのですよ、ファーっと。

ライオンズゲートオープン! 時空を超え超文明惑星へ

「ここは不思議なお寺だから、ここで瞑想しましょう」と。それで私はジャーナの力を持っているから、それでやったわけですね。そうしたらその時は、ライオンズコンステレーションと言って、ライオンの星座の8月で、その時だけ全ての惑星が一行に並ぶわけです。ライオンズゲートオープンと言って稀に発生する時空なわけ、それが一万年か二万年かこう、動いていくからね。そういう事は滅多にないのだけれど、そこで座っていたら、こう第四定禅座ったら、ふわーっとゲートがオープンというか、空間が出るわけだね、その場所で。

そして見たら女性の顔が沢山、異時空間より出てくるわけですよ。それで私はボンと飛び込んだら、ちょうど映画のコンタクトみたいなものだね、フワッと行って他のプラネットにプツと着くわけです。シャーマンも私が入っていくのが見えるわけですが、そのシャーマンだから。それで彼が入って行こうとすると、大男が出てきてパーンと止められて、

いや君はダメと。そして宇宙時空を飛んで行けば、もうスターウォーズの空中のスターウォークみたいな、そう人が、こうエンジェルみたいに綺麗な恰好で歩いているわけです、男の人が。空中都市みたいな、曲線みんな、建物は四角ではないのですよ、こうくにやくにやして、本当に超文明でした。

まあそのエンジェル男児の歳も最低20万年くらい経っているのでしょうね。でも姿かたちはもう16歳18歳の一つも崩れない生命体で、それでスーッとみて、グリーンプラネットね、グリーンほとんどグリーンで。それでスーッと帰って来たわけです。という風な、その今でも力があれば時空が発生して、そういう体験が出来るわけです。



インカの神

第九禪定でポータル・太陽からインカの大神様を連れてきた

その後マチュピチュ、あるでしょう？空中都市。そこでまたクチョというシャーマンが、私は秘密のケーブに入る場所を知っているから、そこで皆を集めて瞑想したいと。それで私が瞑想したわけですね、そこで。そして、皆ももう疲れて寝ている時に、不思議な岩の前でこう座っていたら、側にいた人が、真夜中が昼の様に明るくなって、岩からピラミッドがウワーッと出てくるのですよ。本当にそれを写真で撮ろうと思ったくらい凄い光を出して。

私は深い瞑想に入って、第九禪定に入ってね。その時に、コンドルがパタパタ乗ってくれ乗ってくれと言うわけです。それで第九禪定までジーっと我慢してポーンと乗れば、ヒューッと太陽に向かって、太陽がポータル、それで他の異時空間の地よりアルト・ミサヨと言うインカの民が待ちに待っていたその大神様がフワーッと他の時空に現われて、一緒にこっちにやって来ました。いや本当、本当ですよ。

それからこの地球が変わり始めて、ほら 2012 年破壊とか何とか言っていたでしょう？その 2 月なのですよ、発生する 12 月ではなく 2 月、そこに行って座って。やっぱり呼ばれたわけですね。法随観を持っているから、神々は分かるわけですね。それでこういう風なインディアナジョーンズより凄い旅をしているわけ、現世の地上で。それで地上が破壊しないようになっているわけです、こうある時期になって。

それは白いひげを生やして、白い髪で、白い衣を着て杖をもっているわけです。それは絵でよく出てくる。この方が出たらインカの民は救われるという待ちに待っていたその大神様なわけだけれど、この地上にいないで、私がポータルで他の世界に行って帰ってくる時に一緒に来られたと思います。

無量にある銀河・梵天の網、インドラの網は六角形

だから太陽はただ独立しているわけではないわけです。今でもありあとあらゆる太陽とコネクションして、一体化してこの銀河系は動いているわけです。それで銀河系も他と繋がっているわけです。だから NASA で最近発表されたその三千の銀河系が、一体にして動いている、こう、ここら辺は。その後は空間があるだけ、何にも無い。銀河も何も無い。それで繋ぎ合わせてみれば、無量にある銀河あるでしょう？ちょうど六角形の網みたいになっているわけです、六角形。それがその昔私が瞑想で観た、その中にぼつんとブッダがいるわけです。あ、これがインドラの網だと。梵天の網。それを南伝の人は四角いという網かと、いや網はあるけれど私ははっきり言わなかった。あんまりそういう事を言えばすぐ、どうのこうのと言うのだけれど。(立体で気に観れば、立方体。平面的に観れば、六角形)。

それが仏歯の天井は六角で出来ている、上が。だからその入り口は、三角形の穴

が開いているわけです、仏牙齒。神は三角と言ったでしょう。「白い三角、空中に浮いて」道元禅師が、そのことを書き留めているわけです。それは曹洞宗のお坊さんが、解説できないからただあるだけだけれど、それはその事なわけです。まあそれ以上詳しく言えば、またそれをすぐに真似て、やる人がいっぱい出てくるから。ある程度こうオブラートに包んで、発表しなければすぐ真似るよ。私の法話集が出ている間、あちこちで何か真似事が一杯発生したみたいで。それが真似て良い事だったら良いけれど、分らずに、さも分かったようにして言って、他の人に迷惑がかかったらこっちに来るでしょう？いやあれ水源さんが言っていたよ。なんて最後に出来なければ来るけれど、私は全然知らない人達だから。

まあそういう風な想像もできない、映画でも出ないような大ストーリーを、ちょっとお話ししましたけれど。

それは別として私の高校時代からの親友で、このビルディングを持っている社長さんでUさんと言う素晴らしい方で、皆さん一つご挨拶をお願いします。

【司会者】

Uさんにこの会場を無料で使わせて頂いているので、皆様お礼申し上げます。下さいませ。

【参加者全員】

ありがとうございます。

阿弥陀の国に行くには蓮の花から生まれる

まあそういう大ストーリーで、今回もそういう旅を続けているうちに観音様から海印海潮禅をソラ山という韓国で有名な山があって、非常に霊山で、その近くの山々を金剛山一帯、金剛。金剛と言うのは、青銅という意味を金綱という意味なわけで、ダイヤモンドではないわけですね。それで何故かそこで瞑想したら、教えてくれてこの法をとってください、と。

それで皆さんに去年本栖湖でして観音様が現われて、この蓮の花に皆さんがこういう風に座っているのだけれど、花びら、台の上ではなく花びらの上にみんな座って。それで私が観たのも今回も、全員がこの花びらの中に座っていたと。こういう中で座って、という事は、阿弥陀の国に行くには、蓮の花から生まれると。この事。この事を指しています。

それで法然上人が、どれくらい座ったか知らないけれど、熱心に浄土三部経を読んで瞑想して唱えていたら、やっぱり湖から宝石が上がってきて、太陽が上がって、そして阿弥陀様がという事を、あると言うか確定して、そして浄土経を広めて、その後、親

鸞聖人が、高野山で瞑想して、いやこれは間違いないという事で、浄土真宗を広めて、大石寺ここが本山で、江戸城、豊臣が敗れた時に京都に移って、という風に延々と因縁は繋がっていくわけですね。

コンピュータでは「究極の心の世界」は解析できない、法随観でしか

まあそういう事で、やっぱり何故これだけ仏教がこれだけ凄くて宇宙の宝であるかと言えば、やっぱりどんなに進化しても、結局究極の心の世界がどうなっているか、というのは観えないわけです。解析できない世界。コンピュータで解析しようとしても、実際にそれを観なければ解析できないでしょう。解析できる機械がない。電子顕微鏡でも観れない。では、何で観れるか、心だけしか観えない。それで心だけしか観えないこの色即是空、空即是色という現象を観ることが出来るのは、ただ一つ法随観だけです。

それでこの物質世界でも、私たちはプルトニウム239とか色んなことを言って、そこまでは、実際には観えないですよ。理論的には観えるけれど、実際に誰も確認していないけれど、電子とかそういう物で、そういう存在があるという事は観えるけれども、中身は誰も観てないのです。

それでルーパの世界で行けば、その中身を観ていくから、だから天空の世界の物質と地上界とはまた違うのです。でも構造は一緒なわけで。構造は一緒だけれど違う物質できているけれど、同じ構造で出来て行くわけです。

特に今度、ナーマ心の世界、心の仕組み、これはもう本当に心の眼でしか観えない、完全に。絶対に物質も、地、水、風、火の元は絶対に解析できない。観ないエリアにあります。だから物質の固まった水素、酸素とかの雑な物質の世界は、まだ観えるけれども、本当の物質はもっと細かい所にあって、私がおその水のルーパを観て追跡していくわけですよ。それでジャーナに入ってもう三十分くらい経って、どこまでやっても捕まえることができないわけです。どこまで追跡していても捕まえることが出来ないという事は、ここなのですよ。

諸法空相、不生不滅、不垢不浄、それで不増不減ここ不増不減、大きくもならないけれども小さくもならないと。だからジャーナに入っても追跡していくと言うのは、光のスピード以上なわけです。それでも捕まえられない。

というのは過去世を観ると言うのでしょうか？結局光のスピード以上のスピードで走って行くから、つまりアインシュタインの理論で、時空を超えてしまうから、過去が簡単に観えるわけです。心のスピードと言うのは、もう宇宙も一瞬にして駆け巡るから。宇宙の前の宇宙まで観てしまうわけでしょうか？だから簡単に観えてしまうわけ。それで未来もまたその反対方向で、観えると言うのはなぜ観えるのかと、方向性は一定だけれども未来は、川の流れのように変わることがあるけれども、過去は確定してしまいます。しっかりと刻み込まれてしまうわけですね心の中に。まあそういう事なのです。

それでそういう事を確認して、こういう風なお釈迦様の般若波羅蜜多心経という宇宙の花がここに集約されているけれども、これを実際に観るには、やっぱり法髄観でただ一つしかこの手法でしか観ませんね。そのまま全部観えます。何が色で何が空か、空を観るのがまた大変、最終段階の最終になってくるから。

まあそういう大漫遊記から般若心経から重ねてこうお話ししていかには仏法の凄さというか、間違いないという事を皆にお話ししたかっただけですね。良いですか？



サマーディーブツダ（千手千眼の組手）・スリランカ

水源禪師法話集 94

(2018年5月13日 大阪合宿3日目)

2019年2月23日発行

編集兼発行 一乗禅の会